



「がんを治せる病気にする日」を一日も早く手繰り寄せたい。
想いのこもったがん治療研究を募集します。

**deleteCでは、がんを治せる病気にするため、がん治療研究を推進する
医療者・医学研究者に対する寄付及び、啓発活動を行っています。**

2020年度（2021年1月）は2テーマを選出し、それぞれ100万円・200万円の総額300万円を寄付しました。

受賞者の想いや取組を取材し動画などの啓発コンテンツを制作、社会全体への啓発活動を行いました。

今年度も寄付と啓発を通じて、がん治療研究を応援します（臨床研究200万円以上、研究を支える活動100万円以上）。

募集テーマ

がんを治せる病気にすることを目指した、社会的インパクトのある臨床試験や臨床研究（以下「がん治療研究」）を主な対象とします。また、がん治療研究の進歩につながる橋渡し研究やがん治療研究をささえる人材育成などの取り組みも対象となります。がん種は問いません。

原則として、基礎研究や動物をモデルとした研究は選考の対象外となりますが、本気でがんを治せる病気にすることを目指した画期的な治療法につながる基礎研究であれば選考対象となる可能性があります（がん治療を大きく変える可能性がある研究に限る）。

応募必須条件

- ・医療者または医学研究者であること
- ・他の医療者・医学研究者の推薦が1人以上とりつけられていること
- ・啓発コンテンツ作成のための取材にご協力いただけること
- ・2022年2月開催予定のdeleteCイベント・関連イベントにご参加いただけること
- ・受賞1年後に向けて、寄付・啓発対象テーマの進捗・成果と寄付金用途をご報告いただけること

募集期間・応募方法

募集期間： 2021年 5月15日(土) 0:00 ~ 2021年 7月7日(水) 24:00 時間満

応募方法： 必要事項を申請書にご記載の上、URLまたはQRコードより
応募フォームにアクセスし、ご応募下さい。

<https://forms.gle/ZJZXkVoMfzcSTDqWA>



選考委員（あいうえお順・敬称略）

医療者選考委員による書類選考の上で、deleteC選考委員および協賛企業選考委員がWeb面談をおこない、最終選考をおこないます。

（医療者選考委員）

上野 直人 テキサス大学MDアンダーソンがんセンター・乳腺腫瘍内科部門 教授
 大津 敦 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 病院長
 桜井 なおみ 一般社団法人CSRプロジェクト 代表理事
 坪井 正博 国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 呼吸器外科長
 藤原 恵一 埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター長・婦人科腫瘍科 教授

スケジュール（予定）

募集期間：2021年 5月15日(土) ~ 2021年 7月 7日(水)

書類選考：2021年 7月 8日(木) ~ 2021年 9月上旬

Web選考：2021年 9月 中旬 ~ 2021年 9月下旬（Webプレゼンを予定）

寄付・啓発対象者の決定：2021年 10月上旬

取材期間：2021年 10月中旬 ~ 2022年 2月

寄付対象者の発表：2022年 1月 29日(土)（deleteCイベントにて寄付対象者の登壇予定）

寄付・啓発の実行：2022年 2月 ~

評価項目と観点

こちらは申請書の記載項目です。がんを治せる病気にすることを目指した臨床試験や臨床研究に加えて、そのようながん治療研究の進歩につながる橋渡し研究やがん治療研究をささえる人材育成などの取り組みも対象となります。項目に対する記載内容に基づき、選考委員による書類選考・Web面談をおこないます。

- ・ 申請者氏名
 - ・ 申請者所属、職位
 - ・ 研究テーマ
 - ・ 研究の概要(研究の背景、目的、研究デザイン、主な評価項目など 800字以内)
- * 社会的インパクト**
- ・ 研究の臨床的意義、患者さんへの寄与(250字以内)
 - ・ 研究の新規性、独自性(250字以内)
- * 科学的根拠の妥当性**
- ・ 研究の背景と現在の課題、研究目的(1000字以内)
 - ・ 研究計画（研究デザイン、対象疾患、適格性基準、評価方法、評価項目、目標例数、評価期間、など）
 - ・ 研究機関名称及び研究責任者
 - ・ 応募に際した研究責任者の了承の有無
 - ・ 本研究における応募者の立場/役割
 - ・ 本研究に関係のある応募者の研究業績
- * 実行可能性**
- ・ 倫理面への配慮（遵守すべき指針等や倫理審査委員会での審議状況）
 - ・ 応募テーマを完遂するための資金計画（準備状況、スポンサーの有無など）
 - ・ deleteCからの寄付100万円の資金使途
 - ・ 応募テーマにおける実行及び完遂のための課題(最大5つ)
- * 応募者の情熱**
- ・ 応募テーマを進めたい理由・想いや情熱(250字以内)
 - ・ がん治療・がん治療研究を進める上で、どのようなことを大事にお仕事されているか、なぜ医療者になられたのか(250字以内)
- * deleteCとして応援・啓発すべきテーマか**
- ・ 応募テーマを社会に啓発する際のポイント・その理由(250字以内)
 - ・ 推薦者氏名
 - ・ 推薦者所属、職位

※申請書のフォーマットはdeleteCホームページからダウンロードできます。 <https://www.delete-c.com/>

*** お願い *** 書類選考に通過した際には、web選考が実施されます。申請ページの応募フォームにおいてweb選考の希望日時をお伺いしておりますので、そちらへのご回答もお願いいたします。

2020年度の公募・寄付・啓発の実績

2020年度は、コロナ禍での公募実行の可否について様々な検討を進めました。結果、小さい活動でも継続することを決意し、すべてオンラインで公募を実行しました。治療法の開発、QOLを向上する研究、臨床試験をささえる活動など9テーマの応募がありました。書類選考およびWeb選考の結果、2テーマを選出し、研究内容や取組み、がん治療にかける思いなどを取材し、動画を制作、広く社会に啓発しました。2021年1月30日、deleteC寄付先を発表する為の「deleteC 2021 -HOPE-」をオンラインで開催し、受賞者を称えました。

2020年度 2テーマを選出し各200万円・100万円を寄付・動画コンテンツを制作



「がん特異的代謝機構に基づく新規放射線治療併用増感剤の研究開発」

慶応義塾大学医学部 先端医科学研究所
特任助教 大槻雄士先生

【選出理由】

科学的根拠に裏付けられた新しい視点からの研究であり、実用化へのステップを踏んで開発が進められています。別の病気の治療に使われていた既存薬を使うため、安全性検証の過程を少なくできます。この研究が実用化されれば、革新的ながん治療法となりえます。早く実用化されてほしいという期待も込めて、deleteCとして応援することを決定いたしました。

「臨床研究への看護師の参画について
—研究参加者を守り、研究の質向上のためのリサーチナースの普及・啓発」

東京大学医科学研究所附属病院
緩和医療・先端臨床腫瘍科 藤原紀子先生

【選出理由】

臨床研究に参加する患者さんを看護するナースには、研究に対する理解や知識が必要とされます。日本では、クリニカルリサーチナースの存在、つまり臨床研究のことも理解し、目の前の患者のケアも出来る看護師が圧倒的に足りていません。そのためリサーチナースを育成する必要がありますが、ナースが臨床研究における看護を体系的に学ぶ仕組みそのものがありません。本テーマを応援することで、国内の臨床研究の質向上につながることを期待されると考え、deleteCとして応援することを決定いたしました。

deleteC 2021 -HOPE- の録画はYouTubeからご視聴いただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=30BExEm3DBs&feature=youtu.be>



2019年度の公募・寄付・啓発の実績

2020年2月1日、deleteC初の寄付先を発表する為の「deleteC 2020 -HOPE-」を開催。2019年度は、抗がん剤の開発、治療法の開発、ゲノム医療など17テーマの応募がありました。寄付金を渡し、社会に広く啓発したい研究テーマを「D&I」部門（ドネート&インフォーム部門）として2つを選出しました。さらに、寄付対象とはならなかったものの、広く社会に知ってもらいたい研究テーマを「I部門（インフォーム部門）」として2つを選出しました。

2019年度2テーマを選出し各100万円を寄付・動画コンテンツを制作

「早期子宮頸がんに対するセンチネルリンパ節生検併用による 侵襲の軽減とQOL改善を目指した標準治療法確立のための国際共同第Ⅲ相試験」

埼玉医科大学国際医療センター
婦人科腫瘍科 助教 藪野彰先生

【選出理由】 応募のあった17テーマの中での評価は第1位でした。早期子宮頸がんの患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上のために国際共同試験に参加して、標準治療法確立に挑戦されるという研究テーマで、大変重要であるということでの選出となりました。代表理事小国からは「web面談で、先生とお話をさせてもらった時から、誠実で研究に対するまっすぐな想いに、僕らは共感しました」と人柄の素晴らしさも紹介されました。



「網羅的遺伝子解析による小児がんの治療法成績改善」

名古屋大学医学部付属病院 ゲノム医療センター
病院講師 奥野友介先生

【選出理由】 小児がんは遺伝的要因が強く、乳幼児の死亡要因としても高い疾患ですが、きちんと診断されれば治療確率の高い特徴があります。遺伝子から調べるという医療の仕組みが成立していない中で、遺伝子検査を行うこの研究の意義は大変大きいということでの選出となりました。代表理事小国からは「先生は、普段の講演や市民講座でも自分で描いたイラストを使い、分かりやすく人々に伝える工夫をしているということでした。こういう先生がいらっしゃるということに感激しました」とありました。



-研究テーマの発信- 応援している研究を各種メディアで発信 誰もが理解できる内容に翻訳

●動画制作



●イントロダクションレポートデザイン





みんなの力で、がんを治せる病気にするプロジェクト

「がんを治せる病気になりたい」、そのシンプルで強い思いから、deleteCのすべては始まりました。毎年あらたに100万人以上ががんと診断され、毎年37万人もの人ががんによって命を落とし、生涯で2人に1人ががんになるといわれています。

こうした数字を目の前にすると、その問題の大きさに、足がすくむ気持ちになります。いったい自分になにができるのだろう、と。でも、私たちは絶対に“あきらめたくない”。

がんの治療研究は日々進んでいます。
その研究のひとつひとつが、希望の種です。
deleteCは、誰もが参加できて、みんなでがんの治療研究を応援していける
仕組みをつくり、がん治療研究を応援し続けます。

deleteC とは

個人、企業、組織や立場を越え、誰もがその思いを自由に意思表示するなど応援できる仕組みをつくり、1日でも早く「がんを治せる病気にする日」を手繰り寄せることに貢献します。

具体的には、プロジェクトに参加する企業・団体・自治体・個人が自身のブランドロゴや商品、またはサービス名から「C」の文字を消したり、deleteCのロゴやコンセプトカラーを使うなどし、オリジナル商品・サービスを制作・販売・提供します。購入金額の一部はdeleteCを通じて、医療者が推進するがん治療研究に寄付します。

2020年9月にはSNS投稿や買い物が寄付になる「deleteC大作戦」を実施。9,000件超の投稿・100万回以上のアクションが行われ、総額225万円ががん治療研究への寄付金として集まりました。

現在では、賛同企業70社、寄付者1000名を超える方々に支持されています。

昨年6月には、deleteCの第2回目のがん治療研究を公募。2021年1月30日には、オンラインで寄付先の発表会「deleteC 2020-HOPE-」を開催。トップアスリートによるチャリティオークション「HOPE オークション2021」やアーティストのAIさんによるオンラインスペシャルライブ「いいねの募金」などを開催。そして、「Why deleteC」をテーマにたくさんのメッセージをいただきました。

がん臨床試験の専門的知見を有する医療者のほか、プロジェクト参加企業、deleteC医療リサーチチームといった多様な視点を持つメンバーで選考委員会を構成し、厳正なる審査のもと、寄付すべき医療者や研究者、研究機関を決定いたしました。対象となった治療研究を発表し、コンテンツ制作等を通じてdeleteCが選定するメディアにて幅広く情報発信します。



「誰もが参加できる」デザインアクションを通じて寄付・発信を行い、がん治療研究を応援する仕組み

